

# 黒木瞳さんと語る 八女市のこれまでと、 これから一。

## 堀川バス

八女市本町に本社をおく堀川バスは、昔も今も多くの人の暮らしを運んでいる。



## 今はなき南仙橋

平成24年7月の九州北部豪雨で流出した矢部川にかかる唯一の木橋だった。

八女の玉露を  
召し上げる  
黒木瞳さん



次代を生きる  
子どもたちにとって  
誇りある  
ふるさとにしたい。

一度出て行った人も  
大志を持って  
帰って来れる  
そんな八女市へ。

# Special conversation

黒木一族など歴史的な文化もたくさんありますし、芸術家もたくさんいらっしゃいます。

**黒木瞳さん** 八女は古墳も多いですし、歴史を紐解くと深いですよ。

**三田村市長** そうなんです。この歴史文化が埋もれてはいけなくて、新生八女市になって最初に取り組んだのが交流事業です。南北朝時代の後醍醐天皇との関係で奈良県の吉野町、菊池一族との関係で熊本県菊池市など、全国に歴史の絆がで、五條家の素晴らしい歴史も今また盛り上がっています。

**黒木瞳さん** 私たちも帰ると少しづつ、「八女」の名前の由来となった八女津媛神社や良成親王のお墓、五條家の金鳥の御旗を見せていただいたりと、子どもの頃は知らなかった八女の文化や歴史のすばらしさを感じています。監督をつとめた「練香花火」の映画では、そんな歴史ある福島、黒木町、矢部川、白壁通りなど、ふるさとを撮影させていただき嬉しかったです。

**三田村市長** 瞳さんは子どもの頃、どんな遊びをしていましたか？

**黒木瞳さん** 小さい頃、南仙橋の下矢部川に、母がよく洗濯に行っていたんです。

ふるさとに残って人生を送りたいという子どもをどう育てていくかが非常に重要です。

**黒木瞳さん** 子どもたちみんな、夢、願望、目標、いろいろと持っていると思うんですね。まちから出て行ってもいいと思うんですよ。こんなに素晴らしいふるとは、外に出てみないとわからないところもあるんですね。自分の夢や希望を持って外に出て、それを理解してくれる周りの大人たちがいて、こんなにふるとはいいんだっていうのを一人ひとりが発信しているって、その中の何人かがまた戻ってきて、それで豊かになっていくと一番良いと思うんですよ。

**三田村市長** おっしゃる通り。外に出ることを心配せず、そういう人たちが安心して帰って来られる八女を創っていかないとけない。今日はいい勉強になりました。これから八女市は、豊かな自然や農産物、人の心のあたたかさの中で次代の子どもたちが安心して、健康で育っていくように「ふるさとの恵みと誇りを未来につなぐ、安心と成長のまち八女」。これに向かって

**三田村市長** お母さんが洗濯に！

**黒木瞳さん** はい。だからいつも洗濯について行って、南仙橋の下で泳いでいたんです。小学生になると、大藤の前の矢部川で夏休み中泳いでいたね。山に登って、畑に行ったり、田植えも稲刈りもしたりして、牛もいたので糞を干して、糞を牛に食べさせて、茶摘みもしましたし、いろんな作業を手伝っていました。今思えば貴重ですよ。八女高校にはディーゼーカーや堀川バスで、間に合わない時は50ccの単車で通学していました。

**三田村市長** そういう経験がこの日本の大女優さんを育てたと。驚きです。瞳さんは、八女市の小学校などにも貢献いただいていますね。

**黒木瞳さん** NHKの「ようこそせんばい」という番組で、黒木小学校の子どもたちにタップを教えたり、輝翔館からは、校歌を作ってほしいということ、歌詞を書いて、生徒さんたちが歌ってくれています。

**三田村市長** ありがとうございます。今私たち八女市は、第5次八女市総合計画のもと各施策に取り組んでいます。その中で一番の使命は、やはり子どもたちの育成、子育てだと思っています。ふるさとを愛し、

飛躍していきたいと思っています。

**黒木瞳さん** 八女市に元気があれば福岡県も元気になるし、福岡県が元気だと九州も元気になる。そういう意味で八女市から元気を発信していたら素敵だと思いますし、みんな一人ひとりがふるさとを愛する場所であってほしいと思います。

**三田村市長** 本場にそうですね。最後にぜひ、これからの次代を担う子どもたちにエールをいただけますか。

**黒木瞳さん** 自分の子ども時代はものすごく自由だったんですね。よく勉強して、よく遊んで、よく運動して、何もかも一生懸命やってきました。もちろん好きなことは見つけてほしいですが、好きなことを見つからなくてもいいから、一日一日を大切に、よく勉強してよく遊んでほしい。その中に必ず何か見つけていけると思います。

